

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600755
法人名	医療法人 社団芳洋会
事業所名	グループホーム やすらぎ
訪問調査日	平成21年4月1日
評価確定日	平成21年5月1日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	第1473600755号
法人名	医療法人 社団芳洋会
事業所名	グループホーム やすらぎ
所在地	横浜市泉区和泉町7315-7 (電話) 045-303-7871

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年4月1日	評価確定日	平成21年5月1日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 1日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	22人	常勤 4人	非常勤 16人	常勤換算 10.0人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄筋コンクリート)造り
	4 階建ての 2,3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷 金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	240,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要 (2月1日 現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 78.6 歳	最低	63 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜寿光会クリニック 横浜いずみ台病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは横浜市の郊外、泉区と瀬谷区の境界部にある、鉄筋コンクリートビルの2・3階に位置し、窓からは田園風景、遠くに山々や富士山などが見えます。特徴として、1階が同法人のクリニックであることから、利用者の健康、医療面でいろいろサポートが受けられ、職員もそれが安心材料につながっています。しかし残念ながら、建物が老朽化し、数年後にホームを移転する予定です。
利用者は家族がいない人、行政が関与している人が多いのですが、そのような様子はあまり感じられず、建物も病院を改造したために、ゆったりとした内部空間に恵まれて、利用者と職員が和気あいあいと暮らしています。調査当日も、利用者の誕生会が開かれる予定で、利用者の笑顔が印象的でした。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に改善事項はありませんでした。今まで通りの運営を続け、更に利用者のケアの改善が図られることを期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は、リーダーが毎日1頁ずつ指示し担当の職員が記入して、それを管理者が目を通して作成しました。評価の意義を理解して、管理者・職員一緒になって作成しています。自己評価での気づきを日々のケアに活かしていこうとする事業所の前向きな姿勢を感じます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>泉区が調整をして、区内のグループホーム職員、利用者・家族代表、民生委員、自治会役員、行政職員等が集まって、主に事業所報告を中心にして会議を開いています。具体的な成果はまだ現れていませんが、事業所は、貴重な意見を頂ける場として考えています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には、事業所の行事などを載せた「やすらぎ通信」を年に2回発行して送付しています。それとは別に金銭報告は毎月行っています。面会時には職員が利用者の様子を出来るだけ報告するようにしています。また面会に来られない家族には、電話をかけて伝えています。居間には利用者の表情、様子を撮影したイベントの写真がたくさん掲示されています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎年、近くの小学校で開いている夏祭りや、泉区主催の衣類のリユース事業等のイベントに参加をしています。正月には獅子舞がホームを訪れました。防災については、地域の合同訓練に参加しているほか、非常災害時の備蓄等で地域に協力できないか、自治会の役員と話し合っています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は、家族のいない利用者が多いため、職員の会議等を多くして利用者の情報をできるだけ増やしたり、あるいはボランティアの訪問を増やして楽しみの場を多く作ったりして、利用者がその人らしい生活を精一杯できるように、職員と地域の力を借りて支えていこうとしています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、一日に2回の申送り、職員のミーティング、あるいは定例会議等、情報を共有する場を利用して、理念を確認し合っています。会議に出席できなかった職員には会議録を回覧して、情報の共有の徹底と日頃のケアの確認を行っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、近くの小学校で開いている夏祭りや、泉区主催の衣類のリユース事業等のイベントに参加しています。正月には獅子舞がホームを訪れました。防災については、地域の合同訓練に参加しているほか、非常災害時の備蓄等で地域に協力できないか、自治会の役員と話し合っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は、リーダーが毎日1頁ずつ指示し担当の職員が記入して、それを管理者が目を通してまとめました。評価の意義を理解して、管理者・職員一緒になって作成しています。自己評価での気づきを日々のケアに活かしていこうとする前向きな姿勢を感じました。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	泉区が調整をして、グループホーム職員、利用者・家族代表、民生委員、自治会役員、行政職員等が集まって、主に事業所報告を中心にして会議を開いています。具体的な成果はまだ現れていませんが、事業所は、貴重な意見を頂ける場として考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のほか、半年に1回の割合で開かれている区のグループホーム連絡会の場、また行政が関与している利用者の生活状況の報告・相談等を通して、行政の担当者と情報交換をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、事業所の行事などを載せた「やすらぎ通信」を年に2回発行して送付しています。それとは別に金銭報告は毎月行っています。面会時には職員が利用者の様子を出来るだけ報告するようにしています。また面会に来られない家族には、電話をかけて伝えていきます。居間には利用者の表情、様子を撮影したイベントの写真がたくさん掲示されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、重要事項説明書に苦情相談の窓口の記載がある旨を説明しており、また苦情・相談に関するポスターを事業所内に掲示しております。事業所には苦情相談の委員会もあります。このような体制ではありますが、家族からの苦情・相談等は今のところありません。また冷凍食品の利用について家族に意見などを聴きました。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設後5年弱経過しているものの職員の退職は少なく、職員の定着が比較的良い事業所になっています。当日も退職した職員から利用者宛に、誕生日のプレゼントが届けられていました。辞めるときは利用者へ配慮してそっと身を引く、反対に入ったときには、元気に挨拶をして、利用者の不安を少なくしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修もあり、おむつ交換、体位交換、口腔ケア、入浴等をテーマにした研修などが開かれており、職員はできる限り参加しています。外部の研修も、必要に応じて参加をしており、シフト調整、交通費補助を行うなど、参加しやすい環境を整えています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区のグループホーム連絡会によって知り合った同業者、近くにあるグループホームとはいろいろ情報交換をしたり、職員を交換して研修を行っています。場所柄瀬谷区に近いせいか、他区の同業者との情報交換も多いようです。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設の見学、訪問面談の機会を増やして、利用決定までできるだけ施設の雰囲気を感じ取ってもらうようにしています。またお試し宿泊ができるように、ショートステイの研修に職員が参加する計画もあります。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>主に料理の話が多く、味付けの助言をしてもらったり、当日も利用者がぬか味噌漬けを作るため職員が買い物ついでに材料を買ってくることになりました。職員に料理の先生をしていた方が入ったため、これからも料理の話が増えそうです。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で声を掛け、言葉や表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしています。家族からの情報をもとに「本人はどうか」という視点にたって介護をしています。スタッフは日常の申し送りなどで情報の共有に努めています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は利用者との日ごろのかかわりの中で思いや意向を把握して作られています。スタッフ間で検討を重ね、家族や関係者に相談してかなりきめ細かい介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケア会議は3ヶ月に1回開催していますが、その時々気づきや意見を反映させながら臨機応変に介護計画の見直し、変更を行うなど、柔軟な対応をしています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物の1階がクリニックということもあり、医師や看護師との連携が取れています。デイサ - ビスも出来る状態となっていますが、現在は残念ながら利用者はいません。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ建物内にクリニックがあり、ここをかかりつけ医として常に情報交換が出来る環境にあります。また、近くの協力医療機関の眼科や歯科医の受診が出来る体制になっています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の気持ちを大切に、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごせる様に医療連携体制をとっています。利用者や家族と繰り返し話し合い、希望に変化がないか確認をし、スタッフ全員で情報を共有しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの誇りやプライバシー - を損ねない対応をしています。他の家族や外来者に対して利用者のプライバシー - に関する事を話さないように、入職時やミ - ティングの際に繰り返し伝え、徹底を図っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定等にこだわらず、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の利用者の気持ちを尊重して対応しています。ただ、食事だけはみんなで一緒に食べるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は声かけをしたり、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしています。毎月お誕生会を開き、行事食も大切にしています。希望される利用者は、食事の片付けや食器洗い等を職員と一緒にいきます。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ずつの入浴支援をしています。入浴は週2回ですが、入浴しながらの方については職員がとても上手に誘導して入浴支援をしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	読書をされる方、ぬか漬けを作る方等、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しています。職員に毛染めをしてもらって、お花見に行く方の顔がとても嬉しそうに輝いていました。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や、利用者の気分や希望に応じて、買い物や散歩等を楽しんでいます。外出希望のない利用者であっても、天気がよい日などは散歩や外出等に誘い、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関の施錠はせず、利用者の自由な暮らしを支援しています。一人ひとりの外出のくせや傾向をつかんで対応をしています。鍵を掛ける影響について、ミーティング等でスタッフ同士確認しあっています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回、避難訓練を行っています。非常用の備蓄として、水、米、缶詰などがあります。最近の福祉施設の火災例にあるように、火には絶えず注意しており、調理には火を使わず電磁調理器を使っています。		定期的な避難訓練や全ての職員が避難方法を身につけられるようにマニュアル作りが望まれます。災害の発生に備えて食料や、トイレ(排泄)、寒さをしのげるような備品等を準備しておくことも大切です。又、夜間の対応についても話し合う事が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は絶えず記録し、職員同士で情報を共有しています。摂取量が少ない利用者に対しては随時摂取できるように対応しています。お茶嫌いの利用者には、スポーツドリンクなどで、水分を補給しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院を改造したために、居間、廊下、それに各室とも、建物全体がゆったりとして広々としています。廊下や居間には、季節に合わせた飾りや、色々な行事の写真も飾られており、楽しい雰囲気です。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に行政が関与している利用者が多いせいか、居室は持ち物が少ない利用者が多く、さっぱりとしています。和室の部屋もあります。クローゼットが広いので、中にタンスを収納している利用者が大半です。荷物の多い部屋は、使い慣れた日用品などが持ち込まれており、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎ
(ユニット名)	2階ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町7315-7
記入者名 (管理者)	小林 直樹
記入日	平成 21 年 2 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活が送れるよう、利用者の思いや個々の力に合わせたケアを行なうことを基本としています。		その人らしさが発揮できるよう、事業所だけではなく地域などの社会資源を生かしたケアが出来るよう展開していきたいと思います。
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング・定例会議・常勤会議などを理念の共有の場として活用しています。その中で事業所としてのケアの方針などを確認しあっている。会議録にて出席できなかったスタッフも共有できるよう努めています。		今後も継続して各ミーティングを行ない、理念の共有を図りたいです。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面談時や運営推進会議の際に、事業所の活動や理念を伝える場として活用しています。		今後も地域住民の方たちにアプローチしていきたいです。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や花壇を整備している際に、気軽に声を掛けていただく機会が増えています。		事業所のイベントなどにも地域の方を招待し、より良い関係を目指します。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや区のリユース事業などの地域のイベントに参加しています。又、防災についても協力体制が取れるよう自治会の方とお話をしています。		今まで参加したことのない、活動にも参加を検討していきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や自治会の方とお話する際、地域での課題や要望が見えるよう努めています。		地域の資源として近隣住民の方に活かして頂きたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段の様子を見ていただく事で、自分たちでは気づきにくい、良い点や改善すべき箇所を把握し、質の向上に努めています。		今後も全スタッフで自己評価を行ない、普通の業務にいかしていきたいです。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な意見を頂ける場として、真摯に受け止め、業務の改善にいかしています。		事業所・地域の課題を話し合う場として今後も活かしていきます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区のグループホーム連絡会などを通して、話し合う機会を設けています。		サービスの質の向上のためにより密接な関係を作っていきます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、どのような制度なのか、理解し必要性について学んでいます。		全職員が制度に対する理解を深め、ニーズに応じて活用していきたいです。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を議題にしたミーティング等を開催し、徹底に努めています。		勉強会などには今後も積極的に参加していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>話し合いを十分に行ない、ご理解を頂いていると思います。電話や郵送での説明を希望される方もいますが、必ず事業所を実際に見て頂きその上で説明を行なっています。</p>	<p>今後も同様に、ご理解いただけるよう努めていきます。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情窓口について説明を載せ、契約時に説明しています。また、事業所内に苦情受付・窓口に関するポスターを掲示しています。</p>	<p>今後も同様に行なっていきます。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に事業所の行事などを載せた通信を作成し送付させていただいています。面会時にはスタッフが日々の様子や状態をお話しています。</p>	<p>通信とは別に、個々の様子が分かるような手紙などを送付していきたいです。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情窓口について説明を載せ、契約時に説明しています。また、事業所内に苦情受付・窓口に関するポスターを掲示しています。</p>	<p>今後も同様に行なっていきます。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>普段の申し送りや業務会議などでスタッフの意見・提案を聞く機会を設けています。</p>	<p>より良い運営が行なえるよう活用していきます。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在、勤務時間帯については変更していないが、利用者の状態や家族の状況に応じて勤務時間を変更しなければならない事もあると職員と話合っています。</p>	<p>柔軟に対応したいと思います。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を抑える努力はしているが、代わる場合は前もって利用者に説明を行ない、ひとり1人に話しかけ、極力ダメージを防ぐよう心掛けています。</p>	<p>出来る限り移動・離職がないよう努めていきます。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は定期的開催され、出来る限り参加をしています。法人外では勤続年数に応じた研修があれば、勤務を調整して参加できるよう努めています。		全スタッフの質の向上や意欲を高める為、今後も積極的に研修を取り入れたいです。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や地域の連絡会などを通じて勉強の機会を設けています。		今後も法人内外に関わらず、積極的に交流を深めていきます。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングなどでスタッフ同士の交流を図っている。又、年に数回だが外部での食事会を開催しています。		ストレスをもつスタッフは少なく、今後も精力的に改善できるよう努めたいです。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	電話やメールなどで随時、状況を報告しています。又、定期的に会議を開催しています。		向上心に繋がるような環境を整えていきたいです。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や訪問面談をする事により、直接お話が出来るよう対応しています。家族・関係者を含んだ面談と個別の面談を行なうようにしています。		今後も事前の見学や面談の機会を多く持ちたいです。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や訪問面談をする事により、直接お話が出来るよう対応しています。家族・関係者を含んだ面談と個別の面談を行なうようにしています。		今後も事前の見学や面談の機会を多く持ちたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設への紹介や、地域包括支援センターへの紹介を含めた対応を行なっています。		家族や本人が何を一番求めているのか、それに答えられるよう質の向上に努めたいです。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに、可能な限り見学や説明会を行ない、ホームの日常を体感出来るよう心掛けています。		今後も見学の機会を多くもてるようにし、入居前からホームの雰囲気に馴染めるよう努めたいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、利用者が持たれている力を発揮出来る場面作りを心掛けています。昔の事を教えていただいたり、料理や歴史などについてお話を聴かせて頂くこともあります。		常に、どのようなケアが良いのか検討し合いながら質の向上を目指したいです。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、実際にあった出来事をお話させていただき、日常生活の様子を把握して頂けるように心掛けています。その際ご家族様の力が非常に大切である事を伝えるよう努めています。		家族への連絡や相談をこまめに行ない、協同して利用者を支援していききたいです。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それまでの関係をよく理解し、状態に合わせた関わり方を心掛けています。		家族への支援を今後も継続していききたいです。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居を機会に関係が希薄にならないよう、長い期間連絡や面会のない方については、ご利用者様と一緒にこちらから連絡を取らせて頂いています。		今後も、関係が途切れないよう、お力になればと思います。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のコミュニケーションがうまくいくように、利用者の力に応じたケアを行なっています。又、トラブルを未然に防げるよう常に状態の把握に努めています。		良好な関係が保てるよう、小さな変化でも気付くよう努めていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後、関わりを必要とされている利用者や家族に対しては電話相談や、直接お会いし、お話を聴ける機会を作っています。		利用者や家族にとって一番良い状態になるよう、今後も継続して行なっていきたいです。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動、家族の情報をもとに、出来る限り希望や意向を把握するよう努めています。日常の申し送りなどで情報共有に努めています。		スタッフ全員で情報が共有できるよう、申し送りやミーティングを継続していきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん、家族、友人や親族など利用者を知っている方からは出来る限りお話が聴けるように努めています。他施設から来られた場合は各担当者から直接話を聴くようにしています。		入居前の情報収集に今後も力を入れていきたいです。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人・家族からの聞き取りから入居前の状態や生活リズムを把握するようにしています。入居直後、入居1週間後など定期的に変化がないか申し送りなどを通じて把握できるよう努めています。		小さな変化や現状がどのような状態なのか、把握できるよう全職員で努めています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が把握した情報をもとに、介護計画を立てた段階で、スタッフ間にて検討し、本人や家族、関係者に相談させていただいています。その後、再度スタッフ同士にて検討し、最終的に本人・家族の同意が得られるよう努めています。		今後も、本人や家族の意向を反映した計画を立てられるよう、連絡を密にしていきたいです。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しが必要な場合は変更を行ない、短期間にて再度見直しを行なっています。		柔軟な対応が出来るよう今後も継続しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に詳細を記録しています。		個別の記録の重要性を全スタッフで理解したうえで、記入するだけの記録ではなく生きた記録になるよう心掛けていきたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に柔軟な対応を心掛けています。事業所として限界もありますが、可能な限り要望に応じていきたいです。		社会資源を活用しながら今後も対応していきたいです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの小学校や区の展示会に作品を出品し、展示会に参加させていただいています。又、民生委員や町内会会長の協力を得てボランティアの紹介をして頂く機会もあります。		より良い関係が出来るよう努めていきます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内外問わず、情報提供・交換を行なっています。		より多くの方との関係を築いていきたいです。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携をとらせて頂いています。		今後もより良い関係を築いていきたいです。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ建物内にかかりつけ医があり、常に情報交換が出来る環境が築けています。本人や家族の意向もすぐに話し合える関係でもあります。		継続して今の関係を大切にしていきたいです。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>クリニックに週1回、認知症に詳しい医師が診察に来ており、気軽に相談できる関係ができています。</p>		<p>継続して今の関係を大切にしていきたいです。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同じ建物内の看護職が頻繁に来られ、相談を行なっています。それ以外でも、気軽に相談できる体制が整えられています。</p>		<p>継続して今の関係を大切にしていきたいです。。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した際に、病院関係者と話し合う機会を必ず設け、状態の確認や退院について、今後のサービス利用についても担当医師を含めて相談させて頂いています。</p>		<p>入院時に備え、病院関係者との関係を広めていきます。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制についての説明の際に、本人や家族と話し合いを行なっています。また、介護計画更新などの機会に、希望に変化がないか確認しています。かかりつけ医に対しては、本人・家族の希望を伝え実現できるよう働きかけています。</p>		<p>本人・家族と繰り返し話し合う機会を今後も継続したいです。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期ケアについて、出来ること・出来ないことを関係職員と話し合っています。</p>		<p>しっかりとしたケアが行なえるよう、重度化や終末期ケアについての対応を想定した勉強会を開催していきたいです。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替える際、事前に本人・家族と見学をさせて頂き、本人・家族の不安な点などは担当者に伝えていきます。又、介護サマリーを提出させて頂き、口頭での情報交換もさせて頂いています。</p>		<p>現状の対応を維持していきたいです。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時やミーティングの際に繰り返し伝えていています。</p>	<p>徹底されるよう継続して伝えていきたいです。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの力に合わせて、希望が聴きやすい状況や方法を試行錯誤しています。自己決定についても同様の対応を行なっています。</p>	<p>検討を繰り返し、利用者本位のケアが出来るよう努めたいです。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限り希望に合わせたケアを心掛けています。</p>	<p>まだまだ利用者主体とはなっていないので改善していきたいです。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみやおしゃれについてはその人らしさが出るように努めています。現在、外部の理美容を希望されている利用者はいませんが、希望があれば支援していきます。</p>	<p>地域の中の理美容の利用も含めて検討していきます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る範囲で料理の準備や後片付けを利用者と一緒に行なっています。</p>	<p>本人の好みをどのようにして取り入れていくか工夫を重ねたいです。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医・看護師と相談しながら、身体状況に合わせて支援しています。</p>	<p>要望がなかなか表現できない利用者であっても、日々の会話や活動を通じて把握し、支援していきたいです。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンをチェック表や介護記録から把握するよう情報を共有しスタッフ間にて話し合いを行なっています。		個別の排泄ケアが確立できるようにしたいです。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご希望に合わせた入浴を心掛けています。入浴があまり好きではない方については、こちらから入浴に誘わせて頂いています。		今後もご希望に合わせた対応をしていきます。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて適度な休養が出来るよう、状態把握に努めています。		休息する場所の環境を、より良くしていきたいです。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や職歴を考慮して、料理や掃除、買い出しなどの役割活動を行なっています。		全ての利用者が役割や楽しみごとが発見できるよう今後も努力していきます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と相談し、お金を所持したり、自由に使えるようにしています。支払い時に利用者の力に合わせて、お金を渡したり、おつりを受け取っていただいたりしています。		今後もお金を持つことの大切さや意味を全職員が理解できるようにしていきます。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の買物希望や散歩の希望があれば、それに沿った対応をしている。外出希望のない利用者であっても、天気の良い日などは、散歩や外出等に誘い、外の空気を感じていただけるよう支援しています。		現状なかなか希望がないが、外食やお茶を飲みに行くなど、外出の幅を広げていきたいです。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	法事や友人に会いに行くなど、希望に沿った支援を行なっています。		利用者の行ってみたい所を日々の対応から見つけ出し、可能な限り対応していきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるように支援しています。		今後も自由に電話や手紙ができるよう支援していきます。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限は設けず、自由に面会することが出来ます。スタッフも来客者に対して笑顔であいさつするよう心掛けています。		継続して現状の体制で対応していきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なってはいけないと、会議やミーティングの際に職員に伝えていきます。又、具体的な事例を検討する機会も設けています。		今後も全職員に理解してもらえるよう、勉強会等を通じて、最善の対応方法を検討していきます。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な生活を支える為、鍵を掛けないケアに取り組んでいます。鍵を掛けることによってどのような影響があるのかミーティング等でスタッフ同士確認しあっています。		今後も鍵を掛けないケアに取り組んでいきます。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく、施設内の巡回等を行ない、利用者の場所や状態をスタッフ同士確認し合い利用者の所在や様子の把握に努めています。		巡回方法やスタッフ同士の連携を今後も見直していき、しっかりと安全を確保していきます。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者に合わせて対応を行なっています。		状況に合わせて環境づくりを行なっていきます。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に事故防止委員会を開催し、事例検討や、防止策について検討しています。		今後も継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応の研修は法人内外でも受けているが、定期的には開催出来ていません。		定期的な開催を目指し、繰り返し研修をかさねて学んでいきたいと思います。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行なっています。		全ての職員が避難方法を身につけられるよう、対策会議の開催を増やしていきます。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、随時説明させていただき、対応方法について相談させていただいています。		家族の希望を大切にされたケアが行なえるよう今後も話し合っていきたいです。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも気になった点については、申し送りや口頭などでスタッフ同士確認し合っています。身体的な異常であればすぐに看護師に相談し意見を頂いています。		見落としがないよう今後も注意深く利用者を把握できるよう努めていきます。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は受診ファイルに保管し、随時閲覧できるようにしています。不安な点は看護師や薬剤師に相談しています。		薬の効能や副作用については今後も勉強会を含めて伝えていきたいです。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽い運動や乳製品の摂取、マッサージ など、自然排便が出来るよう工夫した対応を行なっています。		利用者の便通の状況を把握し、そのひとにあったケアを心掛けていきます。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。又定期的に歯科衛生士に口腔内の様子を見ていただきアドバイスを頂いています。		今後も歯科衛生士と連携して適切な口腔ケアが出来るよう努めていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録に残し、摂取量が少ない利用者に対しては随時摂取できるよう努めています。		摂取量に注意し、利用者の状態や習慣に合わせたケアを今後も継続していきたいです。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成・定期的な見直しを行なっています。感染対策委員を設置し、事業所内外で研修を行なっています。又、流行時期には臨時の感染対策会議を開催し、症状や予防法について確認しあっています。		定期的に感染対策マニュアルを検討し、適切な対応が出来るよう心掛けていきます。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は夜間に行なっています。食材については業者に発注していますが、最終的な確認はスタッフが正しい、食の安全に努めています。		衛生管理を今後も徹底していきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に草花を植え、季節感を感じていただけるようにしている。また看板は手作りのものを用意し、出来る限り温かい雰囲気になるよう努めています。		事業所が鉄筋コンクリート作りのビル内にある為、今後もより明るく親しみやすいよう環境づくりに力を入れていきたいです。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせた音楽を流したり、行事の写真や作品を展示し、居心地の良い空間を作れるよう工夫しています。		常に改善していきたいと思っています。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢が集うリビングに、ソファやテーブルを用意し、思い思いに過ごせるよう努めています。		スペースをうまく活用し、利用者に合わせて環境を作り上げていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りそれまで使用してきたものや大切なものは、持ち込んで頂くようお願いをしています。新しく購入する場合でも利用者や家族と相談しながら準備しています。		制限のある利用者についても、今後改善していきたいです。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	スタッフ同士確認し合いながら調整を行なっています。		利用者の状態に考慮した対応を行なっていきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室には手すりを設置しています。身体機能に合わせた生活が送れるよう、環境整備に努めています。		一人ひとりの状態に合わせた環境整備を心掛けていきます。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレに目印をつけたり、居室入り口に表札をつけ、出来る限り自立した生活が送れるよう日々検討しています。		家庭的な雰囲気壊さないように工夫を続けていきたいです。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	安全面から2階3階のベランダについては一定の制限を設けています。外周りや4階ベランダについては利用者也自由に利用しています。		制限なく安全確保が出来るよう検討していきたいです。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは医療法人によって運営され、同じ建物内にはクリニックがあり、高齢者医療に長年関わっている医師が常駐しております。健康面、医療面に不安を持たれているご利用者様、ご家族様から大変多くのお問い合わせを頂いております。実際のご利用者、ご家族様からも非常に安心できるとの声を非常に多く頂いております。また、近隣にも同法人の病院施設や介護老人保健施設もあり、協力体制も整えられています。今後も安心できる医療サービスと介護サービスが提供できるよう努めていきたいと思っております。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎ
(ユニット名)	3階ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町7315-7
記入者名 (管理者)	小林 直樹
記入日	平成 21 年 2 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>その人らしい生活が送れるよう、利用者の思いや個々の力に合わせたケアを行なうことを基本としています。</p>	<p>その人らしさが発揮できるよう、事業所だけではなく地域などの社会資源を生かしたケアが出来るよう展開していきたいと思います。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ミーティング・定例会議・常勤会議などを理念の共有の場として活用しています。その中で事業所としてのケアの方針などを確認しあっている。会議録にて出席できなかったスタッフも共有できるよう努めています。</p>	<p>今後も継続して各ミーティングを行ない、理念の共有を図りたいです。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>面談時や運営推進会議の際に、事業所の活動や理念を伝える場として活用しています。</p>	<p>今後も地域住民の方たちにアプローチしていきたいです。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や花壇を整備している際に、気軽に声を掛けていただく機会が増えています。</p>	<p>事業所のイベントなどにも地域の方を招待し、より良い関係を目指します。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>夏祭りや区のリユース事業などの地域のイベントに参加しています。又、回覧板を回して頂き、当ホームでのイベントに参加してもらえようお知らせを出しています。</p>	<p>今まで参加したことのない、活動にも参加を検討していきたいです。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や自治会の方とお話する際、地域での課題や要望が見えるよう努めています。		地域の資源として近隣住民の方に活かして頂きたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段の様子を見ていただく事で、自分たちでは気づきにくい、良い点や改善すべき箇所を把握し、質の向上に努めています。		今後も全スタッフで自己評価を行ない、普通の業務にいかしていきたいです。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な意見を頂ける場として、真摯に受け止め、業務の改善にいかしています。		事業所・地域の課題を話し合う場として今後も活かしていきます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区のグループホーム連絡会などを通して、話し合う機会を設けています。		サービスの質の向上のためにより密接な関係を作っていきます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、どのような制度なのか、理解し必要性について学んでいます。		全職員が制度に対する理解を深め、ニーズに応じて活用していきたいです。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を議題にしたミーティング等を開催し、徹底に努めています。		勉強会などには今後も積極的に参加していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>話し合いを十分に行ない、ご理解を頂いていると思います。電話や郵送での説明を希望される方もいますが、必ず事業所を実際に見て頂きその上で説明を行なっています。</p>	<p>今後も同様に、ご理解いただけるよう努めていきます。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情窓口について説明を載せ、契約時に説明しています。また、事業所内に苦情受付・窓口に関するポスターを掲示しています。</p>	<p>今後も同様に行なっていきます。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に事業所の行事などを載せた通信を作成し送付させていただいています。面会時にはスタッフが日々の様子や状態をお話しています。</p>	<p>通信とは別に、個々の様子が分かるような手紙などを送付していきたいです。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情窓口について説明を載せ、契約時に説明しています。また、事業所内に苦情受付・窓口に関するポスターを掲示しています。</p>	<p>今後も同様に行なっていきます。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>普段の申し送りや業務会議などでスタッフの意見・提案を聞く機会を設けています。</p>	<p>より良い運営が行なえるよう活用していきます。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在、勤務時間帯については変更していないが、利用者の状態や家族の状況に応じて勤務時間を変更しなければならない事もあると職員と話合っています。</p>	<p>柔軟に対応したいと思います。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を抑える努力はしているが、代わる場合は前もって利用者に説明を行ない、ひとり1人に話しかけ、極力ダメージを防ぐよう心掛けています。</p>	<p>出来る限り移動・離職がないよう努めていきます。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は定期的開催され、出来る限り参加をしています。法人外では勤続年数に応じた研修があれば、勤務を調整して参加できるよう努めています。		全スタッフの質の向上や意欲を高める為、今後も積極的に研修を取り入れたいです。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や地域の連絡会などを通じて勉強の機会を設けています。		今後も法人内外に関わらず、積極的に交流を深めていきます。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングなどでスタッフ同士の交流を図っている。又、年に数回だが外部での食事会を開催しています。		ストレスをもつスタッフは少なく、今後も精力的に改善できるよう努めたいです。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	電話やメールなどで随時、状況を報告しています。又、定期的に会議を開催しています。		向上心に繋がるような環境を整えていきたいです。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や訪問面談をする事により、直接お話ができるよう対応しています。家族・関係者を含んだ面談と個別の面談を行なうようにしています。		今後も事前の見学や面談の機会を多く持ちたいです。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や訪問面談をする事により、直接お話ができるよう対応しています。家族・関係者を含んだ面談と個別の面談を行なうようにしています。		今後も事前の見学や面談の機会を多く持ちたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設への紹介や、地域包括支援センターへの紹介を含めた対応を行なっています。		家族や本人が何を一番求めているのか、それに答えられるよう質の向上に努めたいです。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに、可能な限り見学や説明会を行ない、ホームの日常を体感出来るよう心掛けています。		今後も見学の機会を多くもてるようにし、入居前からホームの雰囲気に馴染めるよう努めたいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、利用者が持たれている力を発揮出来る場面作りを心掛けています。昔の事を教えていただいたり、料理や歴史などについてお話を聴かせて頂くこともあります。		常に、どのようなケアが良いのか検討し合いながら質の向上を目指したいです。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、実際にあった出来事をお話させていただき、日常生活の様子を把握して頂けるように心掛けています。その際ご家族様の力が非常に大切である事を伝えるよう努めています。		家族への連絡や相談をこまめに行ない、協同して利用者を支援していききたいです。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それまでの関係をよく理解し、状態に合わせた関わり方を心掛けています。		家族への支援を今後も継続していききたいです。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居を機会に関係が希薄にならないよう、長い期間連絡や面会のない方については、ご利用者様と一緒にこちらから連絡を取らせて頂いています。		今後も、関係が途切れないよう、お力になればと思います。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のコミュニケーションがうまくいくように、利用者の力に応じたケアを行なっています。又、トラブルを未然に防げるよう常に状態の把握に努めています。		良好な関係が保てるよう、小さな変化でも気付くよう努めていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後、関わりを必要とされている利用者や家族に対しては電話相談や、直接お会いし、お話を聴ける機会を作っています。		利用者や家族にとって一番良い状態になるよう、今後も継続して行なっていきたいです。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動、家族の情報をもとに、出来る限り希望や意向を把握するよう努めています。日常の申し送りなどで情報共有に努めています。		スタッフ全員で情報が共有できるよう、申し送りやミーティングを継続していきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん、家族、友人や親族など利用者を知っている方からは出来る限りお話が聴けるように努めています。他施設から来られた場合は各担当者から直接話を聴くようにしています。		入居前の情報収集に今後も力を入れていきたいです。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人・家族からの聞き取りから入居前の状態や生活リズムを把握するようにしています。入居直後、入居1週間後など定期的に変化がないか申し送りなどを通じて把握できるよう努めています。		小さな変化や現状がどのような状態なのか、把握できるよう全職員で努めています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が把握した情報をもとに、介護計画を立てた段階で、スタッフ間にて検討し、本人や家族、関係者に相談させていただいています。その後、再度スタッフ同士にて検討し、最終的に本人・家族の同意が得られるよう努めています。		今後も、本人や家族の意向を反映した計画を立てられるよう、連絡を密にしていきたいです。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しが必要な場合は変更を行ない、短期間にて再度見直しを行なっています。		柔軟な対応が出来るよう今後も継続しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に詳細を記録しています。		個別の記録の重要性を全スタッフで理解したうえで、記入するだけの記録ではなく生きた記録になるよう心掛けていきたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に柔軟な対応を心掛けています。事業所として限界もありますが、可能な限り要望に応じていきたいです。		社会資源を活用しながら今後も対応していきたいです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの小学校や区の展示会に作品を出品し、展示会に参加させていただいています。又、民生委員や町内会会長の協力を得てボランティアの紹介をして頂く機会もあります。		より良い関係が出来るよう努めていきます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内外問わず、情報提供・交換を行なっています。		より多くの方との関係を築いていきたいです。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携をとらせて頂いています。		今後もより良い関係を築いていきたいです。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ建物内にかかりつけ医があり、常に情報交換が出来る環境が築けています。本人や家族の意向もすぐに話し合える関係でもあります。		継続して今の関係を大切にしていきたいです。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>クリニックに週1回、認知症に詳しい医師が診察に来ており、気軽に相談できる関係ができています。</p>		<p>継続して今の関係を大切にしていきたいです。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同じ建物内の看護職が頻繁に来られ、相談を行なっています。それ以外でも、気軽に相談できる体制が整えられています。</p>		<p>継続して今の関係を大切にしていきたいです。。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した際に、病院関係者と話し合う機会を必ず設け、状態の確認や退院について、今後のサービス利用についても担当医師を含めて相談させて頂いています。</p>		<p>入院時に備え、病院関係者との関係を広めていきます。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制についての説明の際に、本人や家族と話し合いを行なっています。また、介護計画更新などの機会に、希望に変化がないか確認しています。かかりつけ医に対しては、本人・家族の希望を伝え実現できるよう働きかけています。</p>		<p>本人・家族と繰り返し話し合う機会を今後も継続したいです。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期ケアについて、出来ること・出来ないことを関係職員と話し合っています。</p>		<p>しっかりとしたケアが行なえるよう、重度化や終末期ケアについての対応を想定した勉強会を開催していきたいです。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替える際、事前に本人・家族と見学をさせて頂き、本人・家族の不安な点などは担当者に伝えていきます。又、介護サマリーを提出させて頂き、口頭での情報交換もさせて頂いています。</p>		<p>現状の対応を維持していきたいです。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時やミーティングの際に繰り返し伝えていています。</p>	<p>徹底されるよう継続して伝えていきたいです。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの力に合わせて、希望が聴きやすい状況や方法を試行錯誤しています。自己決定についても同様の対応を行なっています。</p>	<p>検討を繰り返し、利用者本位のケアが出来るよう努めたいです。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限り希望に合わせたケアを心掛けています。</p>	<p>まだまだ利用者主体とはなっていないので改善していきたいです。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみやおしゃれについては利用者とお話しながら決めています。現在、外部の理美容を希望されている利用者はいませんが、希望があれば支援していきます。</p>	<p>地域の中の理美容の利用も含めて検討していきます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る範囲で料理の準備や後片付けを利用者と一緒に行なっています。</p>	<p>本人の好みをどのようにして取り入れていくか工夫を重ねたいです。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医・看護師と相談しながら、身体状況に合わせて支援しています。</p>	<p>要望がなかなか表現できない利用者であっても、日々の会話や活動を通じて把握し、支援していきたいです。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンをチェック表や介護記録から把握するよう情報を共有しスタッフ間にて話し合いを行なっています。		個別の排泄ケアが確立できるようにしたいです。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご希望に合わせた入浴を心掛けています。入浴があまり好きではない方については、こちらから入浴に誘わせて頂いています。		今後もご希望に合わせた対応をしていきます。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて適度な休養が出来るよう、状態把握に努めています。		休息する場所の環境を、より良くしていきたいです。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や職歴を考慮して、料理や掃除、買い出しなどの役割活動を行なっています。		全ての利用者が役割や楽しみごとが発見できるよう今後も努力していきます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と相談し、お金を所持したり、自由に使えるようにしています。支払い時に利用者の力に合わせて、お金を渡したり、おつりを受け取っていただいたりしています。		今後もお金を持つことの大切さや意味を全職員が理解できるようにしていきます。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の買物希望や散歩の希望があれば、それに沿った対応をしている。外出希望のない利用者であっても、天気の良い日などは、散歩や外出等に誘い、外の空気を感じていただけるよう支援しています。		現状なかなか希望がないが、外食やお茶を飲みに行くなど、外出の幅を広げていきたいです。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	法事や友人に会いに行くなど、希望に沿った支援を行なっています。		利用者の行ってみたい所を日々の対応から見つけ出し、可能な限り対応していきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるように支援しています。		今後も自由に電話や手紙ができるよう支援していきます。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限は設けず、自由に面会することが出来ます。スタッフも来客者に対して笑顔であいさつするよう心掛けています。		継続して現状の体制で対応していきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なってはいけないと、会議やミーティングの際に職員に伝えていきます。又、具体的な事例を検討する機会も設けています。		今後も全職員に理解してもらえるよう、勉強会等を通じて、最善の対応方法を検討していきます。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な生活を支える為、鍵を掛けないケアに取り組んでいます。鍵を掛けることによってどのような影響があるのかミーティング等でスタッフ同士確認しあっています。		今後も鍵を掛けないケアに取り組んでいきます。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく、施設内の巡回等を行ない、利用者の場所や状態をスタッフ同士確認し合い利用者の所在や様子の把握に努めています。		巡回方法やスタッフ同士の連携を今後も見直していき、しっかりと安全を確保していきます。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者に合わせて対応を行なっています。		状況に合わせて環境づくりを行なっていきます。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に事故防止委員会を開催し、事例検討や、防止策について検討しています。		今後も継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応の研修は法人内外でも受けているが、定期的には開催出来ていません。		定期的な開催を目指し、繰り返し研修をかさねて学んでいきたいと思います。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行なっています。又、地域の防災訓練に参加させて頂いています。		全ての職員が避難方法を身につけられるよう、対策会議の開催を増やしていきます。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、随時説明させていただき、対応方法について相談させて頂いています。		家族の希望を大切にされたケアが行なえるよう今後も話し合っていきたいです。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも気になった点については、申し送りや口頭などでスタッフ同士確認し合っています。身体的な異常であればすぐに看護師に相談し意見を頂いています。		見落としがないよう今後も注意深く利用者を把握できるよう努めていきます。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は受診ファイルに保管し、随時閲覧できるようにしています。不安な点は看護師や薬剤師に相談しています。		薬の効能や副作用については今後も勉強会を含めて伝えていきたいです。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽い運動や乳製品の摂取、マッサージ など、自然排便が出来るよう工夫した対応を行なっています。		利用者の便通の状況を把握し、そのひとにあったケアを心掛けていきます。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。又定期的に歯科衛生士に口腔内の様子を見ていただきアドバイスを頂いています。		今後も歯科衛生士と連携して適切な口腔ケアが出来るよう努めていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録に残し、摂取量が少ない利用者に対しては随時摂取できるよう努めています。		摂取量に注意し、利用者の状態や習慣に合わせたケアを今後も継続してまいります。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成・定期的な見直しを行なっています。感染対策委員を設置し、事業所内外で研修を行なっています。又、流行時期には臨時の感染対策会議を開催し、症状や予防法について確認しあっています。		定期的に感染対策マニュアルを検討し、適切な対応が出来るよう心掛けてまいります。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は夜間に行なっています。食材については業者に発注していますが、最終的な確認はスタッフが正しい、食の安全に努めています。		衛生管理を今後も徹底してまいります。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に草花を植え、季節感を感じていただけるようにしている。また看板は手作りのものを用意し、出来る限り温かい雰囲気になるよう努めています。		事業所が鉄筋コンクリート作りのビル内にある為、今後もより明るく親しみやすいよう環境づくりに力を入れてまいります。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせた音楽を流したり、行事の写真や作品を展示し、居心地の良い空間を作れるよう工夫しています。		常に改善していきたくと思っています。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢が集うリビングに、ソファーやテーブルを用意し、思い思いに過ごせるよう努めています。		スペースをうまく活用し、利用者に合わせて環境を作り上げてまいります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りそれまで使用してきたものや大切なものは、持ち込んで頂くようお願いをしています。新しく購入する場合でも利用者や家族と相談しながら準備しています。		制限のある利用者についても、今後改善していきたいです。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	スタッフ同士確認し合いながら調整を行なっています。		利用者の状態に考慮した対応を行なっていきます。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室には手すりを設置しています。身体機能に合わせた生活が送れるよう、環境整備に努めています。		一人ひとりの状態に合わせた環境整備を心掛けていきます。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレに目印をつけたり、居室入り口に表札をつけ、出来る限り自立した生活が送れるよう日々検討しています。		家庭的な雰囲気壊さないように工夫を続けていきたいです。
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	安全面から2階3階のベランダについては一定の制限を設けています。外周リや4階ベランダについては利用者也自由に利用しています。		制限なく安全確保が出来るよう検討していきたいです。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは医療法人によって運営され、同じ建物内にはクリニックがあり、高齢者医療に長年関わっている医師が常駐しております。健康面、医療面に不安を持たれているご利用者様、ご家族様から大変多くのお問い合わせを頂いております。実際のご利用者、ご家族様からも非常に安心できるとの声を非常に多く頂いております。また、近隣にも同法人の病院施設や介護老人保健施設もあり、協力体制も整えられています。今後も安心できる医療サービスと介護サービスが提供できるよう努めていきたいと思っております。